

ひびきあい

ひびきあい Vol.49 平成 23 年 1 月 15 日 発行

発行責任者 芹澤 昭仁
編集者 小林 忠雄
〒182-0012
調布市深大寺東町 3-10-4
TEL/FAX 042-487-6403
<http://homepage3.nifty.com/ise/>



平成 23 年の新春に当たりご挨拶

理事長 芹澤 昭仁

平成23年の新春を迎え、連盟の会員の皆様には、益々ご健勝にてお過ごしのことと、お喜び申しあげます。

去る11月28日の第2回理事会において、以下のことことが決定しましたのでご報告申し上げます。

1) 第14回総会の開催について

日時: 平成23年5月8日~9日に決定

場所: 高尾の森“わくわくヴィレッジ”

2) 第11回全国大会について

イ) 日時: 平成23年10月10日(月・祝)

ロ) 会場: 千葉県文化会館 1,780名収容

3) 機関紙「ひびきあい」の購読料の改正について検討。

以上

尚総会についてお願い申しあげます。

○会場を嵐山から高尾に変更、新宿からJR中央線或いは京王線の利用で約1時間の距離です。合同曲のレッスンや懇親会もあり、交流を深める為多数のご参加をお待ちしています。

又一昨年来、千葉県内に新しい仲間が生まれましたから、大会に参加される楽団は過去最高、300名を越えると思います。

会場に近いディズニーランドを始め、観光県千葉を堪能されることも、大会の想い出を深めることになります。

22年度は大会は開催されなかった故か、各団の定期演奏などが活発に行われました。

3月16日: 市川シニア(発足記念コン)

5月8日: 足立シニア(第9回定期コン)

5月22日: シーガル横浜(10年記念コン)

5月22日: 広島モミジ(10年記念コン)

7月1日: 武藏野シニア(第3回発表会)

7月19日: 市原シニア(マリンコン)

7月25日: 千葉シニア(第1回定期コン)

7月25日: 宇都宮シルバ(11年記念コン)

10月2日: 調布シニア(7年記念コン)

上記の他実施した楽団はあろうかと思いますが、その模様を事務局までお知らせください。

最後に、連盟に参加してなんのメリットがあるのか?と言ふことが問われています。

イ) 連盟はNPOの認証を受けた公認団体ですから、県・市・町等から法にもとづく、補助や支援が受けられます。たとえばレッスンや演奏会場などの使用に対し、一定の減額や無料などの場合すらあります。

ロ) 企業や団体などから、寄付を仰ぐことも可能です。国からの助成にも申請出来ます。

ハ) 連盟が目的としている国際交流が、国の支援の下で、将来行われることも視野に入れて、皆さん! 前を向いて一致協力して頑張ろうではありませんか。

○去る12月14日、東京都福祉保健局が調布シニアのレッスン現場へ取材に来て、都下の同様のサークルの指導用として、参考になるビデオ撮りをしました。

このようなこともNPO団体であり、連盟という全国組織であることが、行政からも信頼され、逆に連盟が社会に広く認知されることに繋がっていくと思います。



【音楽と私】

杉並シニアアンサンブル 代表 林 将人



何事にもきっかけがあり、そしてそれにつながる環境、特に仲間が大切なように思います。

私の音楽との出会いは、疎開先福島の片田舎での小学校の担任の先生だったようです。先生は若い男性の代用教員でしたが、当時には珍しくピアノの練習に励んでおられました。その曲はかすかな記憶ですがモーツアルトのトルコ行進曲だったようです。放課後に先生のピアノにじっと耳を傾ける自分が目にうかびます。先生は今も現地で児童文学者・童謡作詞家として活躍されており、一昨年60年振りに感動の再会を果たし、近況をお話してお礼を申し上げました。

次のきっかけは高校・大学時代の親友にクラシック好きがいて、共に暇さえあれば名曲喫茶でレコードを聴く毎日でした。そんな環境下で大学オケに入る決意をして、ヴァイオリンを取り組むことになったのです。幼少期に叔父からもらった楽器が残っていたことも一因でしょう。しかし就職後は仕事の忙しさで全く縁遠くなっていましたが、娘をヤマハの幼児音楽教室に入れるため、ヤマハに行った時にエレクトーンという楽器にふれ「お父様もいかがですか」と言われ、根っから好きだったこと也有って、大人の音楽教室に入ることになったのです。大阪にあったこの教室の講師の先生と、仲間(クレオパトラとその仲間と名付けた)とは遠くでありながらも今も交流しています。

更なるきっかけは杉並区に拠点を置く日本フィルです。区との共催事業「60歳からの楽器教室」にヴァイオリンで参加したことです。ジュニア育成の機関はあっても老人向けの教室は珍しく、しかも60歳を越えてはじめて楽器を手にする人もいます。一人が中心のエレクトーンから仲間と共に演奏するアンサンブルを期待すること

でした。そしてこの教室の卒業生が集まってきた「杉並シニアアンサンブル」への参加につながりました。

現在は杉並シニアの他、杉並フィルなど数グループに参加していわば音楽三昧の毎日となっていますが、考えてみると常に音楽の仲間を探していました。お陰さまで仲間にも恵まれ、音楽に囲まれた楽しい日々ですが、特にシニア全国大会参加を兼ねた札幌・広島への観光旅行は楽しい思い出です。

しかしながら大勢の音楽仲間と楽しい時間を過ごすには、それなりの努力が必要なのです。最初は同じ気持ちで集まった仲間ですが、次第に考え方には差が出てきます。その原因は「少しでも立派な演奏をすることを中心とする」と「レベルは二の次で、ともかく楽しく過ごしたい」の二つに大別されるようです。これはアマチュアの団体に共通の悩みのようで、多くの揉め事の原点になっています。ともかく皆でとことん話し合うことでしょう。次に大切なのは曲選びです。

各人の好みのジャンルもあり、技術レベルの差もある訳ですから大変です。シニアの場合は楽しみが中心ですから、特に配慮が必要です。ポピュラーでは編曲の上で幅がありますが、クラシックでは原曲に出来るだけ忠実にして、且つ演奏可能なレベルを考えないといけないので。それだけに編曲は大きな要素です。その意味では構成員の技術レベルの変化に対応した編曲を心がけています。つまり同じ団員でもレベルが向上すれば、以前のでは面白くないこともあります。

杉並シニアでは編曲を先生にお願いするとともに、先生にご指導をいただきながら自分たちでもアレンジに挑戦しています。

最後に私の夢を書きましょう。それは私たち合同体の東京西シニアアンサンブルで、大曲の全楽章演奏です。

昨年3月に前期日本フィルが主催した杉並ファミリーオーケストラ演奏会がありました。これは区内の中学生までのジュニアと60歳以上のシニアが一つのオケを編成して、合同演奏をする画期的な企画でした。曲はワーグナー「マイスターインガーフ前奏曲」ビゼー「カルメン組曲」などでした。杉並シニアからも大勢の仲間が参加しましたが、フルのオーケストラは初体験の人も多く、隣でパカパカ弾いてしまう小学生に、圧倒されながらの苦しい練習でした。それだけに演奏後の達成感・充実感は最高でした。

その体験を再び目前で…が夢なのです。

調布シニアアンサンブル チェロ 坂本 康一

小学校に入った頃はすでに日中戦争が始まっていた、周りは軍国調一色だった。紀元2600年の歌が響き「金鶴輝く日本の、栄えある光身に受けて、…起源は2600年、ああ一億の胸はなる」替え歌までが流行っていた。「金鶴上がって十五銭、栄えある光三十銭、…ああ一億の金は減る」

唱歌の時間は講堂にピアノがあつて校長先生の伴奏で「我は海の子白波の…」をよく歌つたし、「松原遠く、消ゆるところ…」を二部合唱で教わり、僕は低音部で高音部のメロディを聞きながらハモるのが楽しかった。「海行かば」は軍歌だったが悲しい調べでとてもいい歌だと思った。信時潔の作曲と知ったのは成人してからだった。信時は交声曲(カンタータ)「海道東征」(北原白秋作詞)という大曲も作っている。

父の務めの関係で2歳のときに台湾に行って終戦の翌年まで過ごした。台湾での住まいは製糖会社の社宅で集落を少し離れると、そこはカムチャ(さとうきび)畑で田圃も菜の花畑もなかった。だから小学校で習った「サクラサクラ」は桜を見たこともなく「海」の松原も見たことがなく、「菜の花畑に入日薄れ…」も二部合唱で教わったがその情景はわからなかつた。また「海」の千網も「我は海の子」のトマヤも何のことだか分からず歌つていた。

またそのころ好きだった歌のひとつは「鎌倉」で「七里ガ浜の磯伝い、稻村ヶ崎名将の、剣投ぜし古戦場…」新田義貞の武勇のことを教わり、同じ組に新田という女生徒がいて親近感があったのか、見たことのない七里ガ浜とか稻村ヶ崎への憧もあったのかよく覚えていない。

太平洋戦争が始まってから、軍歌では「愛国行進曲」を毎日のように歌つていた。

見よ東海の空あけて 旭日高く輝けば
天地の正氣澆刺と 希望は踊る大八洲
おお晴朗の朝霧に そびゆる富士の姿こそ
金鶴無欠搖るぎなき わが日本の誇りなれ
ひたひたと迫る戦争への足音の中での歌だったが歌そのものはいい歌だったし、見たことのない内地の風景への憧れもあった。

小学校は生徒数が全校で約80人、先生5人、教室が4つしかない。4年生までは2学年1組の二部授業、5年生からやっと1学年1組になった。そして5年生は直接大江田という校長先生が担任され、人格者で立派な教育者だったので我々は幸せだった。

小学5年のころ内地から都会的なアカヌケした1年下の佐藤という女生徒が転校してきた。そ

して間もなく音楽の時間に澄んだきれいな声で「ただ一面にたちこめた、牧場の朝の霧の海…」と歌いだした。それは我々が歌っていたのと全く違うジャンルの唱歌でみんな唖然とし聴いていた。その子は一年くらいでまた転校して行つてしまつたが、小学児童として初めて受けたカルチャーショックだったかもしれない。

中学に入ってからは1時間もかかる汽車通学で、戦局もますます悪くそのうち動員で勉強どころではなくなり、音楽からも遠ざかりせいぜい買ってもらったハーモニカで歌を吹くくらいだった。曲は「誰か故郷を想わざる」とか軍歌では「麦と兵隊」とか「空の神兵」「ラバウル海軍航空隊」などだった。

フィリピンを制圧されてから台湾への空襲が始まった。台南一中で空襲にあい、爆弾で崩れた瓦礫と死体の傍をくぐり抜けながら駅に行つたものの汽車が止まっているので5、6人で歩いて帰つた。知つている限りの軍歌や唱歌などを歌いながら歩いたが、途中喉が渇き腹が減つても飲むものも食べるものもないでさとうきび畑に入つて、歯茎から血を出しながら食つた。家に着いたのは夜になつてからだった。

その後動員で山の中に疎開させられ、サツマイモなどを植える労働をさせられている間に、社宅では二回空襲にあい一回目は焼夷弾で家が全焼し殆どの家具、そして父が大事にしていた碁盤も焼けてしまった。二回目は爆弾で家がつぶれた。そして近所に住んでいた会社の課長さんが爆風で亡くなり後に母娘が残されてしまった。

終戦の翌年3月末に父方の遠い親せきを頼つて引き揚げた。宇品に上陸して九州に入ったところで汽車の窓からぽつぽつと白い花が見えた。父

が「あっサクラだ！あれが桜だよ」と教えてくれた。生まれて初めて見る桜だった。敗戦の絶望と台湾でのすべての幸せな生活を失つた悲しみを抱え、これから始まる新しい内地での生活への大きな不安とかすかな期待を抱えて見るサクラだった。

久留米の明善



校に編入して、ラジオもない極貧の生活が始まったなかで、隣家から聞こえる「リンゴの唄」とか「悲しき口笛」などが耳に残った。

しばらくしてフォスターの「スワニー河」「ケンタッキー・ホーム」とか「オールド・ブラックジョー」などが英語で歌えるようになり夢中になった。そして毎日のように狭い我が家で大声で歌っていた。誰も褒める者はいなかった。今でも一番下の弟が「あのころ兄さんは英語でフォスターをよく歌っていたね」と冷やかされる。

高校2年のとき、選択科目で音楽を選んだのは一番楽に単位が取れるのではという単純な発想からだった。しかし水谷先生という若くて美しいソプラノ女性教師に、それまで知らなかった曲を教わったのは二度目のカルチャーショックだった。ほとんど忘れてしまったがベートーベンの「君を愛す」とかシューマンの「はちすの花」などはドイツ語で歌い、合唱曲では「サンタルチア」とかウエーバーの「狩人の合唱」などがあった。僕は高い声が出ないのでいつも低音部を歌っていた。そして試験のとき高い声で歌わされるのには閉口した。文化祭に有志でヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」を四部合唱でやったのは非常にいい思い出となった。

大学に入ったのは1951年、東京まで24時間かけて上京した。中学高校に引き続き貧困の生活は続いたが駒場寮に入れたので大いに助かった。寮は一部屋6人、同室で出会った杉山は偶然台湾の小学時代の友人だった。やはり歌が好きで覚えたてのドイツ語の歌を二人でよく歌い、時にはハモったりしていた。あまりよく覚えていないが「ムシデン ムシデン」で始まる「別れ」とか「自由の歌」などがあったと思う。そして寮内あるいはクラス会などでコンパと称して酒を飲んだ時などは決まって一高、三高、五高、七高などの寮歌か民謡のたぐいだった。

ある時高校から一緒にに入った明石の家に招かれ大きな電蓄でクラシック音楽を聴かされた。たしかベートーベンの交響曲第5番運命だったと思う。SPレコードで3分ごとに裏返したり取り換えたりしながら聴いたが、それまで聴いたこともないすばらしい音楽でそれが3番目のカルチャーショックだった。

それからクラシック音楽に魅せられ、ほかの曲も聞くようになる。ということで音楽に関しては相当のおく手でだったのである。そのころシューベルトの「冬の旅」の楽譜を入手してドイツ語で歌う楽しみを覚えた。「お休み」(Gute Nacht)「菩提樹」(Der Lindenbaum)「あふるる涙」(Wasserflut)「春の夢」(Frühlingstraum)

などなど。

その頃1931年にドイツで作られたモノクロのミュージカル映画「Das Kongresstanzt(会議は踊る)」が上映されて観にいった。主演女優のリリアン・ハーヴェイが可愛くて、その中で歌われた「Das gibt, s nur einmal」(ただ一度だけ)の歌にはまってドイツ語の歌詞を見つけてきて歌っていた。

本郷に行ってからの2年間は殆ど音楽との縁が切れていた。しかし卒業の前年くらいから音楽喫茶が流行って、たまに友人とランブルとかエチュードなどに行つた。音響が素晴らしいコーヒー一杯で何時間も聴けるのが魅力だった。

就職した小さな信託銀行では会社のコーラス部に入った。アコーディオンを持ったインストラクターが来て当時はやりのロシア民謡が一番人気だった。「ともしひ」「カチューシャ」「ステンカラージン」などコーラスにピッタリの曲だった同時にフォークダンスも一時期流行った。

そしてこのころ、労音の主催で芥川也寸志が指揮してショスタコーヴィッチのオラトリオ「森の歌」をやるという情報を聞きつけてきて、一緒に参加しないかとの友人の誘いがあつてそれに乗った。

オーケストラ1000人の合唱が加わる壮大な曲である。今から思えば作曲者がソ連共産党に迎合して作った國の緑化政策への賛歌という曲だが、曲そのものは魅力的な曲だった。合唱はいろいろな地区に分かれてピアノの伴奏で練習をし、最後にオーケストラと芥川先生が入ってオケ合わせをする。そのころ玉電「松陰神社前」に住んでいたので三軒茶屋の練習会場へ毎週日曜日に通つた。そしてバスの2部という一番低い音を歌つた。第一部の終わりのところで一番低いドの音を多くの人が出せないので僕はかろうじて出せた記憶がある。

それまでに何度かNHK交響楽団とか二期会のオペラなど、日比谷公会堂に聴きに行つたこともあったが、リハーサルで間近に聴くオーケストラの響きは、圧倒的で我々の声はかき消されるようであった。仕上げの段階でロシア人のバスの歌手がソロを歌つたが、曲の出だしでものすごい低音をきかせて朗々と歌つたのにはびっくりした。演奏はその年の10月か11月に両国国技館でやつたが非常に良い思い出となつた。

オペラといえばそのころ観たのでは「椿姫」「カルメン」「トスカ」などが思い出されるがすべて日比谷公会堂だった。なかでも「椿姫」のなかのジエルモンのアリア「プロヴァンスの海と陸」が気に入ってオペラアリア全集バリトン編を買つ

てきて歌ってみたことがある。最後の部分はキーが高くて歌えなかった。

それからまもなくアカペラの男声四部合唱に誘われそれまでよりジャンルの広い曲にぶつかることになった。会社の近くの小学校の音楽室を借りて練習したが、テノールの高いきれいな声の出る男がいて引っ張り役、僕のよく響く低いバスの声は重宝された。曲はおおかた忘れてしまったが大学時代も歌ったドイツ語のAbschied(別れ)とかFreie Kunst(自由の歌)、磯部倣の「遙かなる友に」とか北原白秋、山田耕筰の「かやの木山」北原白秋、多田武彦の「柳河」黒人靈歌「ジェリコの戦い」があったように思う。そしてその年の文化祭に出演して好評を博した。

その後貸付課とか支店に転勤して仕事も忙しく夜は大勢で酒を飲むと民謡を大声で歌うばかりで、遊びも墓に熱中してゴルフもそのころ覚えず樂とは縁が切れた。

結婚した頃家にあったのはLPレコードの「四季」一枚だけだった。室内が毎日のようにそれだけをレコードが擦り切れるまでかけて子どもに聴かせていたと後から聞いた。

熱血「チェロ弾きの康一」は次回に続きます。乞うご期待!!



【楽団活動報告】

市原シニアアンサンブル「こすもす」
代表 多見谷 正子

昨年4月に発足した「こすもす」です。この愛称は、市川ISEと混同を避けるため、且つ市原市花でもあることから、県連副理事長の萩原さんが名づけてくれました。コスモスの花名にふさわしく派手ではないけれど、親しみのある可愛らしい女性団員がたくさんいます。

指揮者は大野悦男先生で、現在もヤマハ振興会の仕事をされながら「こすもす」に来ていただいており、忙しさに似合わず、指導はいつもにこやかな笑顔なので、特に「こすもす」の特色でもあるきれいなメロディーラインを任せられるF1パートの団員(全員女性)には、厚い支持を寄せられているようです。

団員構成はVnパートが7名。寺岡さん、月岡さん、森さん、永野さん、古味さん、鈴木さん、多見谷がいます。人数の割に音量が小さいのが悩みですが、上達したいという想いはみなそれぞれ強く持っています。Vcは三上さん。Clも兼ねていて、Cl

は50年の長きという大ベテランとして見事な腕前です。ときどき言うセリフがユニークで、ハッとする感性の持ち主です。F1は松永幸さん、松島さん、松岡さん、岩崎通子さん、村守さん、吉澤さんで団の華とも言える存在で「こすもす」の一押しでしょう。Obは大隅さん。オーボエがいるのは珍しいと言われますが、なんと「こすもす」の最長老の男性として遠く木更津から来られており、姿勢もよろしくて素敵なお紳士でいらっしゃいます。KAは渡辺さん。Pfも兼ねています。「こすもす」の十八番的曲「カミニート」は彼女の奏でる合いの手によって生まれ変わりました。Gsは山田さん。金属の響きがエッセンスの役割を果たしています。一人で頑張ってくれております。KBは前田さん、岩崎喜久子さん。前田さんはPfも兼ねています。彼女たちのおかげでVnパートが救われる部分が多くあります。Pfは吉澤さん、渡辺さん、前田さんで、曲毎に担当を決めています。譜面の枚数が一番多いパートなので、負担を減らす意味でも複数にしました。より習熟度が高まっているようです。Gパートは萩原さん、安斎さん、石川さんで、アンプも付けているのでかなりインパクトがあって、ギターだけが音を出しているくだけは聞き惚れてしまう感があります。GBは副代表も務める松永恒さんです。土台を支える役どころは適役です。機転が利く上に反骨精神旺盛で、味方として頼もしい限りです。以上オールメンバー簡単に紹介しました。

今までの外向け演奏は11月までに6回もこなしてきました。写真は10月に四街道の下志津病院を訪問した時のものです。団員は頻繁な出張演奏に最初は戸惑いを感じながらも、続けていくうちに自信が備わってきたと思います。初めの頃は不安を抱えていたような方も楽しくなってきたとの声も聞こえてきましたし、近くにこんなアンサンブルが出来て良かったという声を聞くと、世話人として立ち上げた寺岡さんや私がやってきたことが実を結んだのを実感します。この勢いに乗って、来る1月25日市原市民会館小ホールでのオ



ブニングコンサートをなんとか成し遂げたいと、団員一同練習に励んでおります。

賛助出演の市川SEの皆様、当日手伝っていただく各SEの方々、市原まで遠路お出で下さることに感謝いたしております。同じSE仲間の協力を得て、素晴らしい演奏会が出来たら最高です。

今年は公私にわたり記念すべき年となりました。これも多くのSEの方々と知り合ったというところから得たものです。このご縁を大切に今後とも、「こすもす」は団員のみならず、各乃SEの方々とともに成長していくことを願うものです。

調布シニアアンサンブル

結成7周年記念コンサートを開催



調布シニアアンサンブルは、平成16年2月に当団の現代代表、且つ全日本シニアアンサンブル連盟の理事長を務める芹澤昭仁さんの呼びかけで発足しました。発足当初は団員数13名程度、ヴァイオリンだけのアンサンブルで月3回の練習でしたが、遂次団員も増え、ビオラ・チェロも順次加わって厚みのある音が出るようになりました。このような時に指揮と指導をお引き受け下さったのが、元N響ヴァイオリン奏者の福田信一先生です。爾来、練習は毎週火曜日午前中(先生のご指導は月2回、残りは自主練習)とし、練習の成果の発表の場としましては、練習拠点である地域公民館及び市の文化会館が主催するイベントに参加、施設への訪問演奏、それにシニア全国大会へ近隣のシニア楽団と合同で参加してきました。この間フルート・クラリネット奏者も入団が相次ぎ、演奏曲目も順次拡大して行きました。

昨年春頃から独自の演奏会を開こうという声が団員の中から上がり、総意となって平成22年10月2日に「結成7周年記念コンサート」を開催することに決定しました。それから、演奏会場の確保、曲目選定広報活動等々にすべての団員が役割分担して協力し合い、練習に励んできました。演奏会場は、調布市駅前のグリーンホール(小ホー

ル)客席数250席を準備しましたが、不足した為急遽50席追加してほぼ満席の中、第一部はクラシックの名曲、木管アンサンブル、弦楽アンサンブルも織りませ、モーツアルトの交響曲第41番(ジュピター)第一楽章まで。第二部では、男性団員は上着を取って寛いだ雰囲気の中で、ポピュラーな、タンゴ映画音楽、民謡等を演奏。第三部は会場の皆様と一緒に日本の歌を楽しみました。

発足以来はじめての自主的な演奏会を団員全員がそれぞれ役割分担して、今成し遂げたという達成感を共有しました。

連盟傘下の楽団から多勢の皆様のご来場、激励を賜りましてありがとうございました。

調布シニアアンサンブル

音楽雑誌「サラサーテ」に紹介記事が掲載

同誌のシリーズもの「熱血アマチュアオーケストラ」に当楽団を探り上げたいとの申し込みが22年7月上旬にありました。知る人ぞ知る弦楽マニアの雑誌からの取材申込みで、大変光栄でもあり応諾して、7月20日の練習日に担当者が来所。練習風景を見学、写真撮影された上、代表の芹澤その他数名及び指導指揮ご担当の福田先生とのインタビューがあり、22年10月発行第36号に紹介されました。高齢化の進む中で、音楽を通じて元気に活動している一端が紹介されました。



東京都福祉保健局依嘱のPR会社より取材を受けました。

東京都福祉保健局からの依嘱で都内の元気な中・高齢者団体の活動状況をPRしている株式会社アソシズフリーから音楽団体としては初めてのことですが、当団の日頃の活動状況の取材がありました。

H22年12月14日に担当者3名が来所。練習風景並びに芹澤代表とのインタビューの収録後、指導指揮担当の福田信一先生、団員数名へのインタビューがありました。H23年2、3月頃から同社のホームページで閲覧可能となります。

<http://www.senior.metro.tokyo.jp/index.html>

ひろしまシルバーアンサンブル～もみじ～ 総監督 伊藤 敏

当団の「結成10周年記念コンサート」(5月22日開催)につきましては、ひびきあい前48号にてご報告申し上げましたが、その後の活動報告を致します。

(1)H22年10月24日(日)広島区東区文化センター
第8回小アンサンブルコンサート

団内の楽器編成をシャッフルして、楽しい親しみやすい小曲を主に演奏。最後は～もみじ～の「男はつらいよ」等で締めくくりました。

(2)H22年11月28日(日)福山市神辺文化会館けん
みん文化祭ひろしま'10ミュージックフェス
ティバル

合唱8 洋楽11の参加団体の一つとして出演。
元気な中高齢者楽団として意気軒昂なところ
を披露しました。

豊中シルバーアンサンブル

代表 尼子 和世

当アンサンブルの平成22年の活動状況を下記の通り報告致します。

地域の公民館での発表会、施設等への訪問演奏等々、団員一致協力して地域密着の活動を続けています。

——記——

- 4月8日(木) 総会・役員選出
- 4月26日(月) 特養ホーム訪問
- 9月4日(土) 中央公民館発表
- 9月18日(土) 桜塚公民分館発表
- 10月25日(月) 特養ホーム訪問
- 10月28日(木) 市立病院ロビーコンサート

練習…毎月2回(第2・4木曜)場所 中央公民館
構成…大正琴2 ハーモニカ2 オカリナ2

フルート1 クラリネット1 バイオリン2
 ギター1 サックス1 ピアノ1 計13名
 他 講師1

ふり向けば アッと云うまに40年 小美濃秀行とリード・フレンド・マリーネ

その昔、練馬公民館成人学級ハーモニカ講座で終了した講習生の声(希望)で蒔いた種が今日まで実りつづけてるのがリード・フレンド・マリーネです。発足して40年になりました。全日本シニアアンサンブル連盟主催第2回東京杉並大会・杉並公会堂での出演から(広島大会は欠場)一昨年

のモーツアルトホールに出場までお世話になっております。

発足当時はハーモニカだけの合奏で楽しんでおりましたが、それだけでは物足りなくなって、アコーディオン・フルート・マンドリン・ドラム・ピアノ等を加えた編成でタンゴでござれ、マーチでござれ、演歌、民謡、クラシックなど私の編曲で毎月3回練馬公民館の音楽室で楽しんでおります。全日本シニア大会のコンサートには勿論のこと、ハーモニカ関係そのほかのコンサートには星の数ほどではありませんがあちこちのステージで楽しくライトを浴びております。そこでマリーネの会員の誰かが…先生はどうして天井がないのですか、と…それはね、その昔、昔、昭和2年、5才のときにお兄ちゃんの(19才年上)ハーモニカを吹いてそのキレイな音に魅せられて今まで80余年のハーモニカで、あちこちのステージで強烈なライトを浴びたおかげでと…ムニヤムニヤ…。それはさておきマリーネの皆さんは20才のお嬢さんから各年代80才までと巾広く、その皆さんをうまくアレンジしてたのしんでいるのがリード・フレンド・マリーネです。一昨年の8月ニッポン・ハーモニカクラブ第42回NHCコンサート(杉並公会堂)のときマリーネも出場、そのときカッコよく棒を振っていた私の足元がふらつき、思わず奏者の譜面台につかまってなんとか演奏が終わりました。あとになってその原因是脊髄管狭窄症のためだったとのことでした。その昔、ニッポンは大国を相手にドンパチしてました。ある軍需工場の職場の音楽部でハーモニカを吹いたり、トランペットを吹いたりドラム等をたたいており、それを活かして、現在ではドラムをたたき乍ら指揮をとつてます。従ってステージではアコーディオンを担当してる、目の中に入れても痛くない孫のようなアコチャンが音頭をとります。指揮者は譜面上のいろいろある約束に神経を集中させて、特に強弱記号の場合、その音の魂と言葉の表現に全身に力を入れて棒を振るので背すじに熱い汗がヌーッと流れるのを感じて、曲が終わるとホッとして、下着のシャツからユニフォームまで汗だく、勿論演奏者も同じことと思います。ある著名な役者の言葉に、稽古場では大根役者のつもりで、ひとたび幕が上つたら“千両役者になれ”と、うれしいセリフがあります。今年の大会は千葉市内の素晴らしい会場とのことです。それにマリーネも出場できることと今からたのしみです。マリーネは30年のときには練馬公民館で盛大に行いましたが今回は10月23日(日)東京練馬区西武池袋線大泉学園駅1分の「ゆめりあホール」でささやかにコンサートを開催すること

に決まりました。そのときにはぜひのご来席をお待ち申しております。

これはシニアの会員ではありませんがマリーネの会員の中で編成しましたザ・スター・コンナモンズと云ったグループ名で、ハーモニカ、アコーディオン、ピアノとマジックのアシスタントの4人です。よろしくごひいきください。

末筆ですがシニアアンサンブル連盟の益々のご発展とグループの皆様のご発展をマリーネの会員一同でご祈念申し上げます。



現代ハーモニカ関係の組織

全日本ハーモニカ連盟(戦前から)

事務局荒川区トンボ楽器内

日本ハーモニカ芸術協会(佐秀会)戦前から

〃 杉並区

ニッポン・ハーモニカクラブ(NHC)戦後

〃 豊島区

関東ハーモニカ連盟 戦後

〃 杉並区

★あとは個々にハーモニカグループがいっぱいあります。

(リード・フレンドもその中です)

23年出演予定

■コンナモンズ

3月8日(火)千代田区内幸町ホール

■リード・フレンド

6月12日(日)練馬区公民館サークル文化祭

■コンナモンズ

8月21日(日)練馬区公民館ファミリーコンサート

■リード・フレンド/コンナモンズ

8月27日(土)N.H.Cコンサート杉並公会堂

■リード・フレンド10月10日(月)シニアアンサンブル千葉市ホール

■リード・フレンド/コンナモンズ

10月23日(日)40周年記念コンサートゆめりあ

ホール

■リード・フレンド

11月6日(日)江戸川区さくらホールみんなの街コン(31回)

【新規加入楽団の紹介】

新しい仲間が増えました。

四街道シニアアンサンブル(略称YSE)

創立:2010年10月7日

本拠地:四街道市総合福祉センター

代表:佐々木信一様

コンサートマスター:岡村斎能様

顧問:広瀬義積様/萩原充行様

指揮指導:成島弘様(四街道交響楽団常任指揮者)

団員:19名

これからのご発展を祈念しています。

【大作曲家列伝】

No.31 スティーブン・コリンズ・フォスター

(1826 ~ 1864)

天才は夭折するといわれますが、歴史に残る作曲家のうち、最も早死にしたのは日本の作曲家滝廉太郎で23才、次はシューベルトの31才、続いてモーツアルト35才、バーセル36才となります。アメリカのスティーブン・コリンズ・フォスターも37才の若さで世を去りました。

「アメリカ民謡の父」といわれるフォスターは1826年7月4日アメリカ独立50周年記念日の朝、ペンシルヴァニア州アルゲニー市長の9番目の子供として生まれました。

音楽一家だったフォスター一家で幼いスティーブンはピアノやハープに合わせて歌う姉たちの歌声を聴いて育ち、いつとはなしにギターを弾きながら自ら作詞作曲をするようになりました。

当時アメリカではミニストレル・ショウといって黒人の扮装をした白人歌手が黒人風の歌や踊りを行なうショウが大流行しており、フォスターの歌曲の多くはその出し物として作曲され、広く人々に親しまれるようになったのでした。

今日の明るく楽しいアメリカン・ミュージカルは、このミニストレル・ショウの影響を受けています。

〈作品〉歌曲「ケンタッキーのわが家」「夢路より」ほか

【平成 22 年度 第二回理事会報告】

日 時：平成 22 年 11 月 28 日（日）13:30 ~ 16:30

場 所：調布市市民文化会館 10 階「百日紅」

出席者：村上忍・芹澤昭仁・鈴木基司・岡村斎能・石津勝・佐野敬次・鈴木健之・高橋昭五・
上原成介・清水玲子（敬称略）

理事挨拶のあと、事務局員山崎の司会で協議に入った

協議事項

1. 平成 23 年度総会について

開催日 4 月 9、10 日から 5 月 8、9 日に変更

加盟楽団の演奏会と重なる為、約 1 ヶ月後に変更

2. 第 11 回全国大会について

詳細は別途ご報告申し上げます

3. 連盟及び傘下楽団の財政強化について

機関紙「ひびきあい」の購読料を改定の件、次回に総合審議予定

4. ひびきあい第 49 号の編集内容について

5. その他質疑応答

【あなたはアンサンブルの仲間になれますか？】

- 1). アマチュア・アンサンブルは、しごき訓練は不可。
- 2). 練習が本番であり、コンサートの時に助っ人が多いのは良いことでしょうか？
- 3). メンバーは、一切の社会的な身分と関係なく参加すること。

バラバラな条件、目的を持ったメンバーが参加するアマチュア・アンサンブルを、スムースに運営し、より良い演奏を維持するためには、まず、統一した理念や約束事で揃えなければならない。

それには、メンバー全員が平等な立場と責任を自覚して、何らかの仕事を受け持って、支え合い、互いの負担を軽減すること。

アマチュアだからどうでもよいのではなく、アマだからこそ支え合う気持が必要です。

面倒な仕事を一人のスーパーマンに任せっきりにして、無責任な傍観者になっては、組織は正常に機能しません。

どんなに有能な人でも、時に大きな過ちを犯さないとは限りませんから。

～アマの演奏会に雑用はない～

- 1) 練習場の確保、セッティング、掃除
- 2) 曲目の選定
- 3) 楽譜の調達・管理・配布
- 4) 楽器の整備など
- 5) メンバーの確保・把握
- 6) 広報活動、涉外活動
- 7) 宴会・レクリエーションの企画
- 8) チラシやニュースなどの発行
- 9) 演奏会場の確保・交渉
- 10) 指揮者やジョイント相手
- 11) 技術向上、各セクションのまとめ
- 12) 財政管理、会計、スポンサー、後援者確保など

【吉野会事務局の表記】平成 22 年度 賛助会員 (敬称略)

ひびきあい Vol.49

22年12月末現在

多数の皆様のご理解とご協力に厚く感謝いたします。尚、前48号にて高橋昭五様一括8口と掲載致しましたが、改めて7名様のご芳名をご報告致します。
今後共宜しくご協力をお願い致します。

【個人】

1 口 5,000 円

村上 忍 (1 口)	高橋 昭五 (1 口)	尼子 和世 (1 口)
金井 明子 (1 口)	高橋 行司 (1 口)	高橋 政行 (1 口)
田渕 圭 (1 口)	新見 健 (1 口)	草 政一 (1 口)
吉田 明彦 (1 口)	福永 寧 (1 口)	山村 秀夫 (1 口)
鈴木 健之 (1 口)	清水 玲子 (1 口)	山崎日出男 (1 口)
鈴木 基司 (1 口)	芹澤 昭仁 (1 口)	小林 忠雄 (1 口)
島田 博一 (1 口)		

【団体】

1 口 10,000 円

有星ハウジング (1 口)	上野楽器 (1 口)
---------------	------------

編・集・後・記

明けましておめでとうございます。

事務局スタッフ一同心より新年のご挨拶を申し上げます。今年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。皆様方にはそれぞれ新年への希望、目標等を掲げて力強く歩み始められたことと思います。今年は10月に全国大会が開催されます。多数の楽団、団員様のご参加を願っています。

今回の第49号で原稿をお願いしました皆様方には、年末のご多忙時にも拘わりませずご快諾下さり本当にありがとうございました。

(小林 記)